

平成28年度 事業報告書

I. 調査研究事業

1. 平成28年12月9日開催の研究委員会において、下記の調査研究内容が承認され、同月に調査研究報告書（No130）として刊行しました。

調査研究テーマ

「中小企業の成長要因～グッドカンパニー大賞受賞企業の分析～」

1. 調査の背景・目的

- ・国際化、少子高齢化、過疎化等、近年の我が国経済は、経営資源の不足する中小企業には厳しい環境にあるが、これまで時代変化に対応しつつ成長を遂げた中小企業は多く存在する。
- ・本調査では、中小企業の成長のポイントを分析するため、文献・統計・アンケート・インタビュー調査から成長企業が行ってきた取組を整理した。インタビューは、当センターが経済・社会的に優れた中小企業に贈ってきた「グッドカンパニー大賞」受賞企業を対象とした。

2. 調査方法

- ・既存の統計や文献を用いて、我が国企業の企業数や売上高等の中長期的推移のほか、高い市場シェアを有する中小企業を整理・確認した。
- ・グッドカンパニー大賞受賞企業を含む企業2,500社を対象にアンケート調査を実施した。
- ・過去にグッドカンパニー大賞を受賞した企業13社に対してインタビュー調査を実施した。

3. 調査結果

(1) 我が国企業の中長期的動向・特徴

- ・企業数・常用雇用者数・売上高・付加価値額の推移を業種別に見ると、全体に占めるサービス業の割合が上昇し、製造業の割合が低下している。企業規模別に見ると、特に企業数や常用雇用者数の観点から、中小企業は依然我が国経済の主要な担い手であるといえる。

- ・高い市場シェアを有する中小企業は全国各地域に存在し、主に部品等や産業機械の分野でシェアを確保している。また、小規模企業で高いシェアを有する企業も確認された。

(2) 成長企業の取組に関するアンケート

- ・全国の企業 2,500 社（うち、グッドカンパニー大賞受賞企業は 464 社）に対し、2016 年 6 月 20 日から 7 月 20 日にかけて郵送にてアンケート調査を実施し、317 件の有効回答を得た。
- ・企業全体での集計に加え、直近 3 年間の平均的な年間売上高増減率別にクロス集計を行った。
- ・年間売上高増減率の高い企業で特徴的な取組として、①事業の選択・集む多角化実施前の各種検討の実施、②継続的な技術・商品開発による成長や差別化、③売上高確保を目的とした海外進出と進出前の主体的な各種検討、④自社に不足する経営資源を補う外部活用の継続、⑤社員への説明等による経営方針の社内浸透、⑥積極的な社員提案受け入れ体制の構築、⑦学校等で自社をアピールする採用戦略等が挙げられる。

(3) グッドカンパニー大賞受賞企業の分析

- ・グッドカンパニー大賞にはグランプリ、優秀企業賞、特別賞、新技術事業化推進賞があり、1967 年度以来、2015 年度までに延べ 632 社に贈ってきた。
- ・グランプリ受賞企業を対象に財務データ分析等を行ったところ、相当数のグランプリ受賞企業が高い成長性・生産性・利益率を実現していた。
- ・アンケート結果をグッドカンパニー大賞受賞企業と非受賞企業に分けて集計した。
- ・グッドカンパニー大賞受賞企業で特徴的な取組として、①継続的な技術・商品開発による成長や差別化の実現、②積極的な知的財産計画策定による他社の特許侵害の防止、③売上高確保を目的とした海外進出と進出前の主体的な各種検討、④自社に不足する経営資源を補う外部活用の継続、⑤社員への説明等による経営方針の社内浸透、⑥採用活動の工夫による定期的な社員採用等が挙げられる。
- ・グッドカンパニー大賞受賞企業に対してインタビュー調査を行った（図表 1）。

図表1 インタビュー対象企業の概要

企業名	業種(製造製品)	成長に寄与してきた取組
イシダ	はかり	既存の市場で製品の横展開。トータルシステムで差別化を実現。
エスペック	精密測定器	黎明期より環境試験器を開発。アフターサービス等の顧客ニーズ対応。
オギハラ	金型・同部品等	習得困難な金型技術の定着。ポリシーを持って独自に海外進出。
スギノマシン	金属工作機械	社員の自主性を重視。5つの超技術を基盤に持ち、周辺事業へ多角化。
ピジョン	育児関連製品	商品が使われる場面の観察を基に哺乳の研究を継続。既存事業の周辺分野へ多角化。病院連携により国内外でブランド力向上。
栗山米菓	米菓	商品ブランド確立と多種展開。社員のベクトル合わせ。現場重視。
高砂電気工業	分析装置用バルブ・ポンプ	ニーズに対応する技術を蓄積。小規模展開から始めた海外展開で成功。
土谷特殊農機具製作所	農業用機械	既存資源を基に多角化。外部活用でコストを削減し、メンテナンスサービスにより顧客の信頼を獲得。
東振精機	ベアリング用ローラー	検討の上でベアリング用ローラー製造へ参入。ローラー製造用加工機械の自社開発及び外販で品質向上と顧客基盤確立に成功。
中山鉄工所	建設機械・鉦山機械	既存技術を活かす分野へ展開。外部活用で過剰投資を避け事業円滑化。
日本全薬工業	動物用医薬品	研究から販売までの一貫体制で顧客ニーズ獲得。社内教育体制の整備。
未来工業	配線器具・配線附属品	現場との接点から収集したニーズを商品開発に反映。社員のやる気を重視し、無駄な残業を減らして差別化。
安田工業	金属工作機械	創業以来高精度にこだわり技術開発を継続。景気後退のリスクを抑えるため産業機械分野へ多角化。

- ・各社に多く共通する取組として、①既存事業の周辺分野への多角化、②ニーズに基づく継続的な技術開発、③知的財産への取組体制の整備、④リスクを抑えた海外展開、⑤多様な効果を狙う外部活用、⑥積極的な学生採用戦略、⑦社内外の研修制度整備が挙げられる。

(4) 企業成長のために有効と考えられる取組

- ・調査結果より、中小企業の成長のポイントを整理した(図表2)。

図表2 中小企業の成長のポイント

選択・集中	<ul style="list-style-type: none"> • 自社技術の活用可否、類似事業、市場のニッチ性、業界品質基準等を確認して事業集中 • 時流に沿った既存製品の縮小・撤退判断、ニーズ・業界動向を踏まえた資源配分の見直し
多角化	<ul style="list-style-type: none"> • 既存の経営資源を活かす分野へ事業多角化、その際自社で不足する資源を外部活用で補完 • 顧客ニーズに応える製品多角化、その際に技術的な対応範囲を整理
技術・商品開発	<ul style="list-style-type: none"> • 顧客ニーズに応える開発の継続、事業性質を加味した技術開発の自社完結・外部提携の選択、自社製品が使用される場面の観察による課題の発見
知的財産に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> • 弁理士連携等の知財取組体制の構築による自社技術防衛や特許取得要否の迅速な判断
海外展開	<ul style="list-style-type: none"> • 売上確保等の積極的な目的による展開、小規模展開や事前の市場調査等でリスク軽減
国内特化	<ul style="list-style-type: none"> • 国内での十分な売上確保を念頭に戦略的に国内特化して高利益率確保
外部企業の活用	<ul style="list-style-type: none"> • 継続的な技術提携で効率的に製品拡大・技術蓄積、事務委託で自社資源を強みに集中
産学連携	<ul style="list-style-type: none"> • 新技術蓄積、学術的裏付け・信頼性の獲得、将来ニーズの発見、人的ネットワークの構築
経営方針の浸透	<ul style="list-style-type: none"> • 経営層から社員への説明、企業理念を実践する社員の表彰・発表、企業理念明確化
組織体制・仕組み	<ul style="list-style-type: none"> • 柔軟で継続的な組織体制見直し、現場判断やニーズ獲得・共有を重視する組織体制の整備
社員採用	<ul style="list-style-type: none"> • 説明会やインターン受け入れによるアピール、特定の学校とのコネクション形成 • むやみに採用数を増やさず、戦略的に自社の規模を調整して高利益の企業体質を継続
社員教育	<ul style="list-style-type: none"> • 公的資格取得支援や語学研修等で外部活用、社内資格制度構築による社員の目標管理

2. 調査研究報告書の配布

・官公庁、都道府県中小企業団体等に以下のとおり無償配布しました。

配布先	部数	配布先	部数
官公庁	193	マスコミ	124
中小企業団体	687	大学図書館	14
中小企業診断士協会	47	センター会員・委員等	135
中小企業学会	36	合計	1,236

・調査研究報告書の全文を当センターホームページに掲載しました。

Ⅱ. 表彰事業

1. 第50回(平成28年度)グッドカンパニー大賞を下記により実施しました。

(1) 候補企業の推薦

平成28年4月1日～6月20日に、グランプリ、優秀企業賞、特別賞、新技術事業化推進賞の候補として38社の推薦を得ました。

(2) 専門委員会による審議

①8月1日及び8月4日に審査専門委員会を開催し、書類審査を中心とした個別審査を行い、現地調査企業を選定し、8月～10月に経営者との面談等現地調査を実施しました。

②8月2日に技術評価専門委員会を開催し、書類審査を中心とした個別審査を行い、技術評価及び現地調査企業を選定し、9月に経営者との面談等現地調査を実施しました。

③11月7日に審査専門委員会を開催、現地調査結果をも踏まえた審議を行い、表彰候補企業を選定し審査委員会に上申しました。

④11月8日に技術評価専門委員会を開催し、技術評価結果及び現地調査結果をも踏まえた審議を行い、表彰候補企業を選定しました。本年度の上申企業はなし。

(3) 審査委員会による審議

平成28年11月30日開催の審査委員会において、専門委員会の上申に基づいた最終審査を行い、第50回(平成28年度)の表彰企業として、グランプリ2社、優秀企業賞6社、特別賞6社、合計14社を決定しました。

(4) 表彰式

平成29年2月1日に経団連会館において、来賓等約110名出席のもと表彰式を開催しました。

2. 第50回(平成28年度)グッドカンパニー大賞 表彰企業

【グランプリ】

株式会社アイオー精密

株式会社東研サーモテック

【優秀企業賞】

(関東地区)

旭化成株式会社

(北陸・甲信越地区)

株式会社協和精工

サン工業株式会社

(東海地区)

エイベックス株式会社

(近畿地区)

関西チューブ株式会社

紀和化学工業株式会社

【特別賞】

佐渡精密株式会社

三昭紙業株式会社

株式会社システムスクエア

株式会社南雲製作所

マルマンコンピュータサービス株式会社

株式会社ワイビーエム